



学校法人志賀学園
認定こども園
平第一幼稚園
令和7年9月30日

朝晩、肌寒い日が多くなり、日中は暑さの中にも秋を感じる気候も増えてきました。こども園では、今運動会の活動に取り組んでいるところです。遊びの中で楽しんでいる曲をもとに遊戯を決めたり、大好きなご両親と一緒に楽しめる親子競技も子どもたちがわくわくしている種目の1つでもあります。その中で、その日の気分によってはやりたくない日もあります。クラス担任の先生を中心に1人ひとりの気持ちを受け止めながら運動会に向けて気持ちの面でも関わりを大切にしています。

10月13日（火）は、スポーツの日です。スポーツの日は、国民がスポーツに親しみ、心身の健康を培うことを目的とした日本の国民の祝日の1つです。毎年、10月第2月曜日がスポーツの日となっています。

元々は、1964年に初めて日本にて開催された東京オリンピックの開会式が行われた10月10日を記念して、1966年に「体育の日」として制定されました。

こども園では、運動会の取り組みを楽しむ声が職員室にも聞こえてきます。ばら組さんやすみれ組さんは遊戯の曲に合わせて元気いっぱい踊る姿が見られますが、先生たちも負けないうくらい楽しんで踊っています。「子どもたちが楽しくなるにはまず先生から」一緒に楽しむからこそ、子どもたちの笑顔があるんだと取り組みの中で日々感じています。

今週はいよいよ運動会本番が近づいています。特にさくら組さんは、こども園生活最後の運動会になります。クラス対抗リレーの取り組みでは、子どもたち同士でチームや走順を決めています。決める中で何番に走るかだけでなく、どうしたら勝てるのかなど戦力的内容を話す場面も見られ、さくら組さんの心の成長も感じます。本番もぜひ、楽しみにしててください。

「はじめの100か月の育ちビジョン」

令和5年12月に、こども家庭庁より「はじめの100か月の育ちビジョン」が発表されました。

子どもたちが小学校に入るまでの重要な時期に、一人ひとりが健やかに育つことができるよう、すべての方に大切にしてほしい考え方をまとめたのがこのビジョンになります。

すべての方に「はじめの100か月の育ちビジョン」に共感してもらうことで、社会の考え方を変えていくきっかけをつくるとともに、「羅針盤」が進むべき方向を指し示すように、国や自治体がどのような政策に取り組んでいくべきかを示す役割を果たします。

家庭だけで育てるのではなく、すべての人や環境を活かし、オールジャパンでこどもの育ちを支えるということが、このビジョンの最も大切な部分になってきます。

また、お子さんが生まれる前の妊娠時期から育ちの環境をこども家庭庁が中心となり、切れ目なく作り上げることで次世代を支える好循環を作り上げていける点もこのビジョンのメリットになります。

このビジョンの中で、乳幼児期の育ちは、「安心」と「挑戦」の繰り返しがとても大切であると述べられています。

「豊かな遊びと体験」・様々な人や自然・絵本などの環境と出会い、興味・関心に応じた「遊びの体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」する気持ちが芽生えてきます。

ご家族や先生、友だちなど様々な人との関わりの中で、刺激を受け、自分の視野を広めながら成長していきます。

「アタッチメント（愛着）」・子どもが不安な時などに身近な大人が寄り添うことや、安心感をもたらす経験を繰り返すことが「安心」という土台を築くきっかけになります。

愛着の部分は、お子さんとどこかに出掛ける＝関わっているではなく、日常の中でお子さんとの言葉のキャッチボールの中で、気持ちを受け止めながら関わりを持つことが一番大切になってきます。

この2つを繰り返していくことが安定した育ちにも繋がっていきます。毎月、ご紹介している特性にもこの部分が大きく関わってきます。

こども園としても、そんな環境の1つとして子どもたちの育ちを支えていく大切な役割を担っていけるよう日々の保育であそびを中心とした経験を多く整えていきたいです。



坂本 卓哉